

## 北海道南茅部町「内藤家文書」

渡辺 英郎

内藤家文書は北海道南茅部町の内藤家で明治、大正期に使用した文書である。

内藤家は南茅部町尾札部みなみかやべ おさつべにおいて網元として漁業に従事しながら商人として村民とかかわってきた。

この文書は内藤家と尾札部の漁民との間で取り交わした文書と、内藤家と函館商人との間で取り交わした文書とからなっている。

この文書は拙者が昭和 30 年代前半に、南茅部町を調査した際に内藤家から貰い受けたものでこれを分析して論文を書いたことがある。この文書は道南漁村の歴史的社會經濟事情を知ることのできる貴重な資料である。この価値を知るものとして後世に残すために平成 13 年 8 月南茅部町に寄贈したい旨を申し入れたところ、南茅部町教育委員会教育長石坂新一氏から快諾をえたので内藤家文書の原本は南茅部町に寄贈することにした。

原本を移管するにあたり内藤家文書をコピーして「北海道南茅部町内藤家文書」5冊編集して函館大学図書館、北海道立図書館、市立函館図書館、国立国会図書館、南茅部町に寄贈した。

本稿の目的は内藤家文書の紹介である。

### I、内藤家文書

明治期から大正期、昭和期の太平洋戦争までの内藤家は、尾札部村で漁業網元兼海産物商人であり、漁民の仕込み親方であった。

当時の漁民は仕込み親方から生活資金、米・味噌・砂糖などを前借して生活し、その反対給付として昆布、漁粕などの海産物を仕込み親方に納入して前借を清算して暮していた。

明治期の文書は金銭借用証と土地売買証が大部分で、他に借金返済のために裁判で使われた文書がある。他には大正後期に使われた金銭出納簿6冊がある。

内藤家文書の価値は、内藤家から仕込みをうけていたそれぞれの漁民と、一年間に何をどれだけ前借していたのかなどの仕込みの内容と、清算しても借財が累積して、漁民の宅地、家屋、海産干場、畑、山林などが内藤家の所有になっていく過程が読み取れることにある。また、内藤家と函館の海産物問屋とで交わした借用証や、金銭台帳から函館と周辺漁村との地域的な関係もわかる。

このように尾札部漁村の社会経済関係が読み取れる歴史的資料である。

## Ⅱ、文書の種別による分類

種別で分類すると下記の15分類になる。

- 1、金員借用証
- 2、地所売渡証
- 3、建物売渡し証
- 4、委任状
- 5、契約証
- 6、有体動産競売競書
- 7、所有権移転登記申請書
- 8、預り金証
- 9、証
- 10、年賦崩済証
- 11、土地控図面

- 12, 茅部鯨定免許状付属図
- 13, 大福帳
- 14, 金銭出納簿
- 15, 仕切り帳

### Ⅲ, 内容による分類

内容で分類すると下記 31 になる。

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| 1, 栗谷川全季にたいする貸金請求文書 21 通。  | 1 頁～ 65 頁 |
| 2, 柳谷定蔵にたいする貸金請求文書 5 通。    | 66 ～ 84   |
| 3, 竹原亀次郎にたいする貸金請求文書 17 通。  | 85 ～ 111  |
| 4, 函館の卯尾熊吉と交わした金員借用証 1 通。  | 112 ～ 115 |
| 5, 函館の橋谷甚右衛門と交わした預り金証 5 通。 | 116 ～ 120 |
| 6, 佐々木サタと交わした預り金証 4 通。     | 121 ～ 124 |
| 7, 大川兼太郎の地所売渡証など 3 通。      | 125 ～ 127 |
| 8, 坂井徳太郎の金員借用証書、地所売渡証 3 通。 | 128 ～ 132 |
| 9, 能戸利助の地所売渡証 2 通。         | 133 ～ 136 |
| 10, 秋本與吉の地所売渡証 3 通。        | 137 ～ 141 |
| 11, 熊谷市松の地所売渡証 1 通。        | 142       |
| 12, 室谷吉次郎の地所売渡証 1 通。       | 143 ～ 144 |
| 13, 竹原米蔵の地所売渡証 1 通。        | 145       |
| 14, 土肥岩蔵の土地売渡証 1 通。        | 146 ～ 149 |
| 15, 白井重遠の土地売渡証 1 通。        | 150 ～ 151 |
| 16, 菊池吉太郎の土地売渡証 1 通。       | 152 ～ 156 |
| 17, 吉川與三郎の土地売渡証 1 通。       | 157 ～ 158 |
| 18, 石川定吉の土地売渡証 1 通。        | 159 ～ 160 |
| 19, 山本八次郎の土地売渡証 1 通。       | 161 ～ 162 |
| 20, 木下八五郎の土地売渡証 1 通。       | 163 ～ 165 |

- |                          |           |
|--------------------------|-----------|
| 21, 仙石綱吉土地売渡証書 2 通。      | 166 ~ 175 |
| 22, 山中乙松の金子借用証書 2 通。     | 176 ~ 177 |
| 23, 佐藤亀次郎の金員借用証など 2 通。   | 178 ~ 181 |
| 24, 藤尾寅吉の連帯金借用証 1 通。     | 182       |
| 25, 羽崎徳太郎の土地売渡証書 1 通。    | 183       |
| 26, 証                    | 184 ~ 209 |
| 27, 期明土地控図面              | 210 ~ 214 |
| 28, 鎌定置免許状付属図            | 215 ~ 216 |
| 29, 中村米蔵宛ての念書など 3 通。     | 217 ~ 220 |
| 30, 藤島由蔵宛ての年賦金借用書など 6 通。 | 221 ~ 227 |
| 31, 所有権移転の登記申請書。         | 228       |

#### Ⅳ、文書の内容

目次に示した中から文書の一部を紹介する。

図 1 預り金証 (117 頁) は、明治 29 年 10 月に内藤二太郎と橋谷甚右衛門との間で交わされたものである。これは内藤家が函館の海産物問屋から仕込み資金を借り受けていたことを裏付けるものである。

図 1

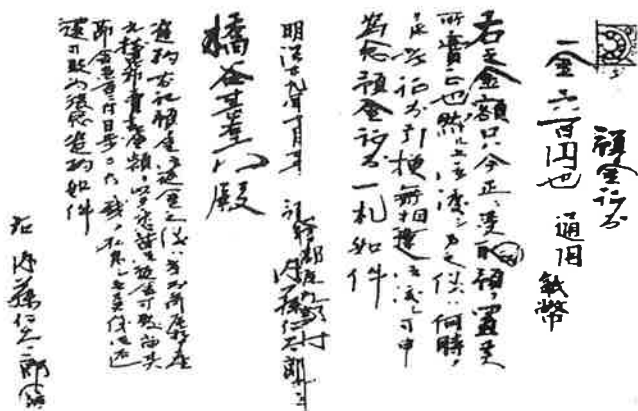


図2、図3の鯧搾粕委託販売契約証書謄本（15～18頁）、図4、図5の金円貸借証書正本（19～22頁）は、明治30年1月栗谷川全季と橋谷甚右衛門との間で交わされたものである。漁民が函館の商人から七百円借りた見返りとして生産物の鯧搾粕を商人に委託販売するというもので、七百円は前渡し金にあたる。

図2



15



16

図 3



17



18

図 4

<p>身金除く白紙除く 金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>	<p>金回貸借証書正本</p>
------------------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

19

<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>	<p>段場、秋、白鳥勝太郎、立會、左、卯、約</p>
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

20

図 5



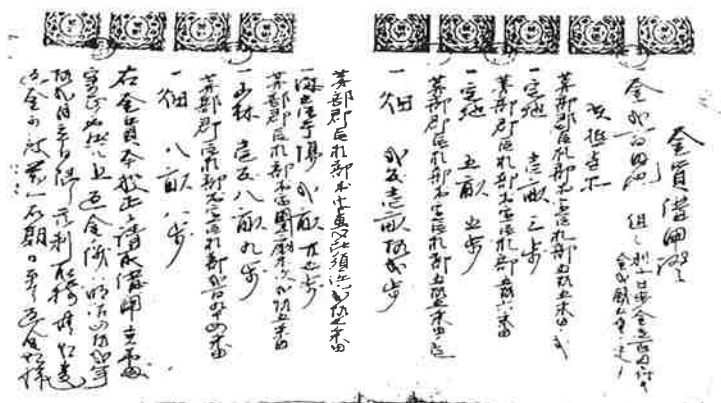
21



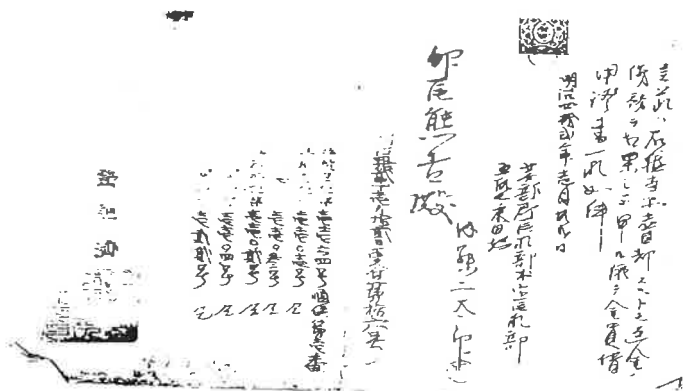


図6の金員借用証(112～113頁)は明治42年1月に内藤二太郎が卯尾熊吉から二百円借用したときに交わしたもので、利子ならびに抵当品となった宅地、畑、海産干場、山林とその面積が記載されている。

図 6



112



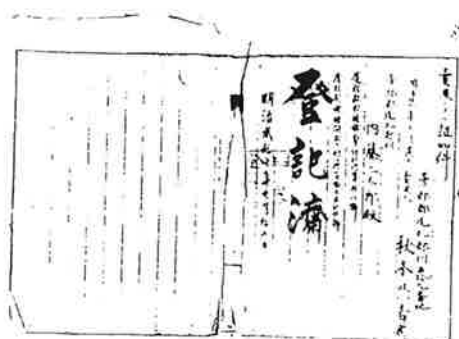
113

図7の地所売渡証(137～138頁)は明治27年7月秋本與吉と内藤二太郎  
 が交わしたものである。秋本與吉の借金が四百五十拾円となり、これを返済す  
 るために宅地、畑、海産干場を内藤に売渡したのである。

図7



137



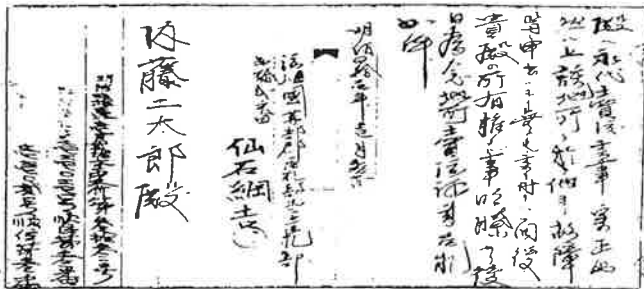
138

図8 土地売渡証 (170～171 頁) は明治41年1月仙石綱吉と内藤二太郎が  
 交わしたものである。仙石綱吉が四拾円で宅地、海産干場、畑、山林を売渡  
 したと記載されている。秋本與吉の金額と土地の比較ができる。

図 8



170



171

図9証(184頁)は明治41年10月坂井藤太郎の決算借用金高の証と、熊谷福松の決算借用金高の証であるが、貸し主は内藤二太郎である。熊谷福松の借用金を決算したところ千七百廿七円六拾二銭二厘となった。これの内訳は米代、正金、諸品代などで、詳しくは別紙差引書の通りであることを認めますというものである。毎年の仕込みが累積してこの金額になったものである。

図 9

